

令和 6 年 7 月 1 日

研究研修・調査報告書	会 派 名		明 風 会
	代 表 者 名		鷹 尾 治 久
	無所属議員名		
研究研修・調査 議 員 名	石 崎 徹 		
研究研修・調査 日 程	令和 6 年 6 月 26 日 ～ 令和 6 年 6 月 28 日		
研究研修・調査 報 告	1	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト	
		研究研修・調査内容 地域における DX 人材育成、スマートシティ最新事例（講演）	
	2	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト	
		研究研修・調査内容 地域医療をめぐる課題と取り組み、日本の DX 推進政策（講演）	
	3	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト	
		研究研修・調査内容 自治体・公共 week2024 自治体向けブースを視察	
	4	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	
	5	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	

1	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト
	研究研修・調査内容 地域における DX 人材育成、スマートシティ最新事例（講演）
長野県伊那市と愛知県岡崎市の先進事例が報告されました。 長野県伊那市では、デジタル公共交通としての活用と山間部への買い物支援としてドローンでの配送を行っている。 デジタル公共交通事業では、ドア to ドアのオンデマンド公共交通のデジタル化を進めた整備状況や、通園通学バスの空き時間を活用し、車両を移動手段だけではなく、サービス主体として、動くモバイル市役所窓口であったり、動くモバイル公民館として運用している。 また、買い物支援としてドローンを活用し、スーパーと連携し注文した商品が地域の拠点まで配送する事業や、山小屋への無人ヘリ運行(荷揚げ)を行っている様子が紹介されました。 中山間部の課題をデジタルを活用しての取り組みから、高砂市でも活用できる事業があると感じています。スーパーエコポリスから イノベーションシティへ 、問題解決型への取り組みが参考になりました。 愛知県岡崎市では、スマートシティが支えるまちづくりとして、徳川幕府から 800 年続く広域拠点として、西三河地域の行きつけのまちになる事業を展開されており、乙川リバーフロント KURUWA 地区 157ha まちのストーリー、130 店舗が参加するナイトマーケット（民間主催）、花火大会などのイベントにおいて、自動車依存であったものを歩いて楽しむ街を育てる取り組みから、群集事故の予防（データを取得し、課題を抽出、解決策を図る）歩道出店の推進（人流カメラにより人流の把握、年代構成の把握の必要性も）人流混雑データの作成と活用（人流分析カメラの設置）を進め、交差点、サイクルシェア、駐車場（イベント情報も記載）などのデータを収集することにより、土地利用の事前検討が可能になるストーリーの構築と公民連携のにぎわいの創造をしている取り組みが紹介されました。公民連携の新たな取り組みが参考になりました。	

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）

2	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト
	研究研修・調査内容 地域医療をめぐる課題と取り組み、日本の DX 推進政策（講演）

地域医療をめぐる課題と取り組みについては、仙台市の事例から、地方創生大臣である自見はなこ氏（医師）と仙台市長、仙台医師会長から紹介されました。

「地方創生 10 年の取組と今後の推進方向」の概要から、一定の成果はあるものの、一方で人口減少、人手不足、都市部への一極集中、高齢者・ハンデのある方の雇用と交通、買い物、医療の充実など、国民的な議論と戦略が必要となっている。

そこで、仙台市では、地域医療構想より、オンライン診療の取り組みを進めている。産学官連携によるイノベーションとして、①オンライン診療 ②処方箋の送付 ③オンライン服薬 ④薬の発送 を一気通貫して行うために、診療カーの導入、看護師が訪問し対面診療と質的に変化のない高品質の通信環境と画像処理、電子聴診器、解析機器などシステム化している。

今後の展望として、仙台から東北の、日本の未来を切りひらくことを目指しているという。都会であっても高齢化が進み、医師不足が深刻な今後にはオンライン診療が求められることとなる。自治体と医師会の連携で、慢性機の方々に安心してもらえる環境整備が必要と感じました。また、規制改革をする上で、診療報酬や看護師の医療範囲の拡充などの課題もあることと、若い医師は理解を示すがベテラン医師には根強い反発があるそうですが、医師不足の高砂市でもしっかり研究する必要があると感じました。

日本の DX 推進政策の講習では、地域をデザインするデジタル人材像の変化について学びました。人間中心のデジタル社会 → 住民のウェルビーイングの実現 そして地域産業 ⇔ サステナブルな地域の構築に向けて、デジタル人材が必要ではあるが、自治体職員が専門的・高度なスキルを構築するものではなく、プログラムができるより、職場の内部状況を理解し、課題を見出し改善点を発信できる人材が重要。例えば、手続きで窓口によって難易度が異なるのではなく、統一すべきと声を出す人材が必要。変革する意思のある人、スタートアップを取れる人材、デジタルサービスの企画・提案など、思いを言語化して何から変えていくべきかを提案できるかが求められる。そのためには、環境づくりが大切と学んだ。県単位での取り組みや、自治体同士、そして官民の連携も重要となってくる。デジタル人材の育成とは、高度な技術者をとっていたが、職員の誰もが疑問に思う、改善できることを発信できる環境づくりが真に大切なことなのだと、痛切に感じました。

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）	
3	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト
	研究研修・調査内容 自治体・公共 week2024 自治体向けブースを視察
各講習の合間でブース出店を視察しました。 ブース展示会では、350 もの企業や団体が出展されており、「DX・業務効率化」「地方創生」「防災対策」「スマートシティの実現」「インフラの維持管理」「住民向けサービス」と6つのブースに分かれ、多様な情報が収集できました。 DX や AI を様々な角度から各企業が自分たちの強みを活かして自治体運営をサポートする商品を数多く知ることができ、情報交換し比較検討できるものでした。 オンデマンドの公共交通や自動運転もスマホやマイナンバーカードを活用しての乗車管理や、オンライン申請の役所手続き、市民協働投稿サービス、交通量分析、道路などインフラの監視システム、施設の維持管理、災害対策、災害弱者用支援ソフトなど防災面での取り組み、子どもや子育て世代への支援策として、ネウボラ事業や、産科・婦人科・小児科へのオンライン相談など様々なスマートシティの取り組み、行政手続きのオンライン化、IoT の可能性を感じることができ、多くの学びを得る視察でした。今後の活動に活かしてまいります。	

令和 6 年 7 月 3 日

研究研修・調査報告書	会 派 名 明 風 会	
	代 表 者 名 鷹 尾 治 久	
	無所属議員名	
研究研修・調査 議 員 名	鷹尾治久 	
研究研修・調査 日 程	令和 6 年 6 月 27 日 ～ 令和 6 年 6 月 28 日	
研究研修・調査 報 告	1	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト
		研究研修・調査内容 小規模自治体でもできる！DX 推進（講演）
	2	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト
		研究研修・調査内容 日本の DX 推進計画（講演）
	3	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト
		研究研修・調査内容 自治体・公共 week2024 自治体向けブースを視察
	4	研究研修会開催地・調査先進地
		研究研修・調査内容
	5	研究研修会開催地・調査先進地
		研究研修・調査内容

1	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト
	研究研修・調査内容 小規模自治体でもできる！DX 推進 10時から10時45分
高知県黒潮町の DX 推進事例について取組み当事者より講演頂きました。 「0 から始める DX」と題して行われた講演で人口 1 万人の自治体（黒潮町）が取り組んでいる内容について、そのポイントを沢山学びました。 講演者 2 名はいずれも外部企業から来現在は役場に席を置いている方。一人は ICT 企業出身、もう一人も IT 関連企業に勤めていた方。このお二人がリードしてデジタルを通じて組織変革を起こす取組が報告されたのですが、そのポイントは下記の通り。 1) トップの強い意志 2) 若手に任せる 3) 小さな成功体験 4) 継続的な教育 ●デジタル化と DX の違いについても改めて理解。デジタル化はデジタルを活用しての課題解決であり業務プロセスの改革・既存業務の効率化を意味するが、DX はそれらを超えて事業の変革・新事業創出を意味するとのこと。デジタル化は守りの業務、DX となれば攻めの業務との考え。 ●組織に浸透させるための組織のあり方では、DX 推進担当部門は情報政策担当部門と別に設けることが望ましいとの話。 ●達成に向けてのポイントは、1) ゴールや全体イメージをみんなで共有する。2) イメージをこまめに共有する（ギャップの最小化）とのこと。 また特に印象に残ったのが顧客（住民）起点思考としての公共バスの運転手さんとお客様の会話事例。お客様「このバスは田野浦を通りますか？」運転手「通りません。」これは確かに疑問を解決しているが課題の解決にはなっていない。解説ではこの答えでお客様の抱える課題は解決しておらず課題解決の為には運転手が例えば「反対車線のバスなら通りますよ」「〇〇行のバスなら通りますよ」「〇〇時〇〇分発の〇〇行のバスなら通りますよ」の対応をする必要があるとのこと。 上の事例で顧客（住民）起点思考の大切さを政策に反映することこそ大切と実感。 その他、職員教育、デジタル化の具体的取り組み、地域通貨の検討、窓口 DX 化等々を資料をベースに学びました。 改めて自治体として DX を進めて行くことの必要性とその難しさと実現へのポイントを学びましたので、その視点を持って行政の取組みを確認し提言していきたいと思います。	

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）	
2	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト
	研究研修・調査内容 日本の DX 推進計画（講演）12 時 30 分から 13 時 15 分

現職デジタル大臣河野太郎氏による講演

最初に「日本の製造メーカーの品質への信頼性は世界的に高い」との話があり誇りを持つべきと感じた。更に国際会議では「マイナンバーカード発行に関する失敗数が 8000 件であることが全発行件数の割合で考えると非常に高い正確性レベルにあり世界では評価されるが、日本では責められる。この価値観は変えないといけない」との話に共感。

講演では、AI 規制のことが社会で話題になることがあるが、本当に AI を使いこなせているか疑問との話にも共感。

ポイントは、DX や AI を活用して具体的に市民生活をどの様に変えて行くことができるか。例えば公共交通をデジタルの力を使ってどの様に市民生活の向上に反映させていけるかを形にして行くことが大切とのこと。

また、規制については公共会議を設け 2 ヶ月間で結論を出せない場合は首長判断で実施可能とするとの見解が示された（詳細は確認が必要）

上記の通り具体的に社会を変えようとする現役デジタル大臣の「デジタル化の必要性」を訴える講演はその本気度を肌で感じることができ有意義であった。

更に世界がかなりの勢いで DX を進めていることを実感し、基礎自治体も自分たちの社会課題の解決に DX を大いに実現して行くことの必要性を感じました。

自分なりににも具体的事例を研究していきたいと思いました。

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）	
3	研究研修会開催地・調査先進地 東京ビックサイト
	研究研修・調査内容 自治体・公共 week2024 自治体向けブースを視察
私が見て回ったのは自治体 DX ブースとスマートシティーブース。 公共交通に対する企業のアプローチが多数あり、自動運転も含め、まさしく高砂市の重要な課題解決に研究の余地がある技術が沢山あることを学びました。 他にも、地域における脱炭素経営の取り組み事例、地元サントリーのペットボトルリサイクルの仕組みも展示されており、改めてその考え方の説明を受け、理解を深めることができました。 この様な展示イベントに足を運んだことで、様々な商品や新しい技術が社会に出ていることを実感し、展示会そのものの訪問の重要性を改めて感じました。	

令和 6 年 10 月 16 日

研究研修・調査報告書		会 派 名 明 風 会	
		代 表 者 名 鷹 尾 治 久	
		無所属議員名	
研究研修・調査 議 員 名	鷹尾治久		
研究研修・調査 日 程	令和 6 年 10 月 2 日 ～ 令和 6 年 10 月 4 日		
研究研修・調査 報 告	1	研究研修会開催地・調査先進地 インテックス大阪（第 7 回 EDIX 関西）	
		研究研修・調査内容 10 月 2 日 ICT リテラシー向上に向けた総務省の取組（講演）他	
	2	研究研修会開催地・調査先進地 インテックス大阪（第 7 回 EDIX 関西）	
		研究研修・調査内容 10 月 3 日 不登校が希望に変わる（講演）他	
	3	研究研修会開催地・調査先進地 インテックス大阪（第 7 回 EDIX 関西）	
		研究研修・調査内容 10 月 4 日 これからの学校教育（講演）他	
	4	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	
	5	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）

1	研究研修会開催地・調査先進地 インテックス大阪（第7回 EDIX 関西）
	研究研修・調査内容 ICT リテラシー向上に向けた総務省の取組（講演）他

第7回 EDIX 関西という展示会（講演会含む）を視察。

10月2日（水）は15時30分から16時30分の間、下記特別講演を聴講

文部科学省から総務省に異動して取り組んでいる方が講師として「ICT リテラシー向上に向けた取り組み」に「～複雑化するデジタル空間で責任ある行動を～」とサブタイトルがついている講演を聞いた。

この講演で前提となっているのが、「ICT はこれからの世の中では有ることが前提で社会が構築されていること」。所が、そのリテラシーにおいては世代間や個人間にかなりのレベル差があり、これをどの様に有益に機能させるのか、総務省もまだまだ模索中である様に受け止めた。

と言いながら、自分たちは自分たちのレベルで使いこなし、今ある技術を更に学び社会課題の解決に一つでも利活用することの大切さを学んだ。

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）	
2	研究研修会開催地・調査先進地 インテックス大阪（第7回 EDIX 関西）
	研究研修・調査内容 不登校が希望に変わる（講演）他

第7回 EDIX 関西という展示会（講演会含む）を視察。

10月3日（木）は14時30分から15時30分の間、下記特別講演を聴講
「不登校が希望に変わる～メタバース✕教師力で誰ひとり取り残されない教育の仕組み」

先ず驚いたのが、壇上に2人の不登校児童が登壇していたこと。その横にはメタバースを運営する責任者がプレゼンターとして取組について説明をしていたが、そのプレゼンテーション中にも、何度かその児童2人にマイクが渡され、自らの心の中を語り、現在のメタバースでのフリースクールで自分が元気になったことを明るく語っていた。改めて、この事に「現代社会にはこの様な形もあり得る」との見識を得た。

またそのプレゼンターは、これらを実績に「学校に行くことが望ましいが、全てではないこと」を日本の国としてスタンダードにしていき、法律をも変えて行くビジョンを持たれていることに、社会をより現実近づけ様として活動をしている趣旨を理解した。

私が座った席（最前列）の隣には壇上の児童の保護者らしき方が座っており、子を思う親の気持ちを思うと、確かに学校に行かなくても元気に成長してくれることこそが親の願いであり、その場を社会として提供して行くことの大切さを痛感した。

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）	
3	研究研修会開催地・調査先進地 インテッス大阪（第7回 EDIX 関西）
	研究研修・調査内容 これからの学校教育（講演）他
第7回 EDIX 関西という展示会（講演会含む）を視察。 10月4日（金）は10時00分から11時00分の間、下記特別講演を視聴 「これからの学校教育」 タイトルの通り「これからの学校教育」として、学校法人堀井学園から講師が来られ、このタイトルで講演を頂いた。 「教育の根幹は「生徒主体の学び」であり「自分の頭で考えて何かに取り組むこと」であるにも関わらず、日本は戦後高度成長時代にはできるだけ言われたことを忠実にできる人間を教育の根幹に据えて取り組んできた。このことは以前より指摘され、修正を図ろうとしているが、実際にはまだまだその名残があり、修正できていない」とのご説明。 この認識のもと、堀井学園は独自のカリキュラムで「自らが主体的に学ぶこと」の大切さを生徒に落とし込む教育を実践してきていることを学んだ。 まさしくこれからの時代は明らかに「自らが自分で考え、自らの人生を切り拓く時代」であり、昔の教育を受けた自分が次世代の教育に口を挟むには、その様なノウハウを身にておらず、軽々と口を挟めないことを学んだ。	

令和6年10月22日

研究研修・調査報告書		会 派 名	明 風 会
		代 表 者 名	鷹 尾 治 久
		無所属議員名	
研究研修・調査 議 員 名	石 崎 徹		
研究研修・調査 日 程	令和6年10月3日 ～ 令和6年10月4日		
研究研修・調査 報 告	1	研究研修会開催地・調査先進地 総合教育展（インテックス大阪）	
		研究研修・調査内容 誰一人取り残さないは本当に実現できているか？（講演）	
	2	研究研修会開催地・調査先進地 総合教育展（インテックス大阪）	
		研究研修・調査内容 令和の日本型教育の現状と課題～次期教育課程の展望（講演）	
	3	研究研修会開催地・調査先進地 総合教育展（インテックス大阪）	
		研究研修・調査内容 自治体向け展示ブースを視察	
	4	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	
	5	研究研修会開催地・調査先進地	
		研究研修・調査内容	

1	研究研修会開催地・調査先進地 総合教育展（インテックス大阪）
	研究研修・調査内容 誰一人取り残さないは本当に実現できているか？（講演）
不登校30万人、自死500人、いじめ問題、教員の過重労働問題が指摘される中、主体的・対話的で深い学びの本質について学びました。日本の学校教育は「過度な競争」「画一的な学び」「多様性の対応不足」「教師の負担」と国際的に指摘されているが、教育で最も大切なことは、何を学ぶかではなく、どのように学ぶかであり、子ども達の主体性と当事者意識とするには「与え続ける教育から学ぶ側の立場から考える教育」へと変わるために、指導から支援へと変化する必要があり、メタ認知能力を向上させる自立から自律への支援とは、子どもの主体性と当事者意識の醸成を教育の最上位目標とし、個々の自律から自律型組織への変革するために何をすべきかを問いかけ考える有意義で貴重な講演であった。	

研究研修・調査報告（所感、提言事項、課題等）	
2	研究研修会開催地・調査先進地 総合教育展（インテックス大阪）
	研究研修・調査内容 令和の日本型教育の現状と課題～次期教育課程の展望（講演）
ICTを活用したGIGAスクールも2節目を迎えようとする今、これまでの活用状況を検証し、あらたなステージへと進んでいくが、一人1台貸与されたタブレットを教育の道具として活用できているか、例えば検索して貼り付けるだけの「集める」にとどまっていないか。そこから、自分事に引き寄せて考察し自分の意見や主張として述べたり、あらたな問いがうめられるような「調べる」を超えた「深める」学習とすべきとありました。 Society5.0に加え、各教科の具体的な学びの充実には、情報活用能力の向上と探求的な学びを一体的にし、他の学習や生活の場でも活用できるような確かな知識として習得されることが重要であり、GIGAは手段であるという理解のもと、今後はAIの活用も必要となるので、教育にどのようなインパクトを与えるのか、検討するべきであるとの、ご意見に今後の学校教育の在り方を考える機会となりました。	

3	研究研修会開催地・調査先進地 総合教育展（インテックス大阪）
	研究研修・調査内容 自治体向け展示ブースを視察
100 社以上の展示ブースがあり、不登校対策としてのバーチャルフリースクールや、AI を活用した教育ソフトや教職員の業務改善システム、体育館のエアコンの紹介、施設の老朽化対策やリノベーションの紹介など、最新のシステムや企業紹介があり、大変参考になりました。 特に、バーチャルフリースクールのブースでは、学校に行くことができない児童もバーチャル画像の中で、仲間づくりができ、しっかり学んでいる様子も紹介されており、個々の事情による学びの姿を理解するきっかけとなりました。 さらに、AI は様々な場面で活用されており、教育現場においても、先駆的に活用されている教員の意見では、タブレットのチャット機能を AI で読み取るなど、個々の対応に最適なツールとして活用すべきなど、私自身、手が出せないでいることの背中を押していただいた気がして、新たなツールの活用へチャレンジしていこう思えるブースの視察でした。	